

## 令和4年度 こんにちは赤ちゃん訪問事業従事者研修会

令和4年9月21日に、新潟市役所にて、「こんにちは赤ちゃん訪問事業従事者研修会」が開催されました。今年度は、初めて会場と Zoom の参加どちらかで参加できるというハイブリッド開催で行われ、準備・運営をされたこども家庭課の皆様ありがとうございました。



講演では、さくら皮膚科医院院長の西條忍先生から、皮膚についての講話をしていただきましたので、皆様にも共有していただきたく、概要をお伝えいたします。

### (1) 赤ちゃんの皮膚トラブル

#### (ア) アザ、母斑

乳児血管腫(いちご状血管腫)、サーモンパッチ、ウンナ母斑、ポートワイン血管腫、蒙古斑、異所性蒙古斑、先天性色素性母斑 など

#### (イ) よくある変化・皮膚病

落屑(生後2週頃)、新生児ざ瘡(ニキビ・生後2週から6週頃)、脂漏性皮膚炎(生後2週から3か月頃)、あせも、間擦疹(おむつ皮膚炎からカンジダ症になることもある)、乳児急性湿疹(こすれるところにはどこでも起こりうる)

### (2) 皮膚炎について

#### (ア) 湿疹・皮膚炎とは

乾燥肌 ≠ 湿疹＝皮膚炎

(乾燥肌だと皮膚炎になりやすい。皮膚のバリア機能障害が強い。皮膚炎が慢性化すると皮膚が硬くゴワゴワになる。)

#### (イ) 接触皮膚炎(かぶれ)とは



一次刺激性皮膚炎(おむつかぶれなど。児は皮膚が薄くて乾燥しやすいため。)

アレルギー性接触皮膚炎(アレルギー物質を感作することにより起こる。)

- (ウ) 経皮感作して食物アレルギーになることも  
(皮膚炎があると食物アレルギーになりやすい。)

(3) アトピー性皮膚炎

- (ア) 定義・・・痒みを伴い、慢性に経過する皮膚炎(乳児の場合、2 か月持続)  
(イ) 原因・・・もともとの体質(乾燥肌など)とさまざまな刺激(悪化因子)  
(ウ) 食物アレルギーとの関係・・・別々の疾患。二重抗原仮説。  
(エ) 経過・・・アレルギーマーチ(アレルギーになりやすい子どもが成長するにつれて、いろいろなアレルギー疾患に順番にかかっていく様子をたとえたもの。  
皮膚炎→食物アレルギー・喘息)

(4) 皮膚炎は早め治療がおすすめ

(アレルギーを獲得しないためには、乾燥や湿疹・皮膚炎を早く抑えて皮膚のバリアを健全に保ち、経皮感作を防ぐ！これはアトピー性皮膚炎の予防にもつながる。)

(5) スキンケアについて

- ・スキンケアでアトピーを予防できる。生後1週間以内に開始する。保湿剤の使用。それでも湿疹が出る場合は治療して、すべすべ肌をキープしましょう。
- ・保湿剤は、両手にたっぷり出し、しわや毛の流れに沿って塗る。擦りにまないようにする。
- ・経皮感作する恐れのある保湿剤は使用しない(ピーナッツオイルなど)。
- ・紫外線ケア・・・帽子、衣類、日焼け止めや日傘の使用
- ・清潔ケア・・・洗浄剤が残らないように気を付ける

(6) おかあさん(産後)の皮膚トラブル

- ・肝斑(紫外線や摩擦により起こりやすい)
- ・脱毛(産後6 か月過ぎる頃にまた落ち着いてくることが多い)
- ・湿った母乳パッドによるトラブル

**まとめ**

- 1) アザの治療は、早めに開始すべき場合がある。
- 2) 赤ちゃんの湿疹は、標準治療できちんと治せるので、早めに皮膚科を受診してほしい。
- 3) すべすべ肌を維持することで、アトピー性皮膚炎や食物アレルギーなどの発症を減らせる可能性がある。